

令和6年度長崎県高等学校・特別支援学校教育研究会 学校保健会中地区養護教諭分科会について

独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「JSC」という。）では、ウェブサイト『災害共済給付Web』※1で、学校等の事故防止に関する情報を提供しています。

また、JSC（福岡支所）では、担当地域（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）の各教育委員会・学校（園）・関係機関（以下「関係機関等」という。）と連携し、関係機関等が主催する講習会等で、事故防止のための情報提供や災害共済給付制度の説明を実施しております。

講習会等において、JSCが作成した事故防止に資する資料の活用方法を幅広く周知し、資料の活用促進を図ることで、学校等の管理下における事故防止の支援を含め、円滑な学校教育の実施に積極的に貢献していきたいと考えております。

【講師派遣依頼をいただきました】

このたび、JSC福岡支所では、長崎県内の高等学校、特別支援学校の養護教諭を対象とした分科会で、「災害共済給付制度に関すること」や「学校等の管理下における事故防止に関すること」について、説明して欲しいとの依頼を受け、職員を派遣しました。



今回の分科会は、令和6年6月28日（金）に、長崎県立島原工業高等学校で開催され、長崎県中地区に所在する学校の養護教諭の方々が参加されました。



【研修の様子をご紹介します】

ここからは、分科会の様子をご紹介します。(10:30~12:00)

本分科会では、災害共済給付制度(請求時の留意点など)に関する説明と「学校等での事故を減らすために」と題して、長崎県の災害の状況、熱中症の事故の傾向と予防・対策などについて、説明させていただきました。



災害共済給付制度(請求時の留意点など)に関する説明

参加いただいた養護教諭の方々に、請求時留意いただきたいポイントなどを説明しました。具体的には、「高額療養費に該当する場合の手続き」「治療用装具の給付金額」「医療費助成制度を利用した場合の給付金額や手続き」「第三者の加害行為による損害賠償」「故意による災害や重大な過失による災害」について説明し、質疑応答を行っています。

JSCでは、学校等の負担軽減になるよう、災害共済給付制度についての理解促進を図っています。災害共済給付制度をご理解いただき、円滑に正しく請求事務が行えることで、災害共済給付の実施によって得られる事故情報の活用にもつながると考えています。



学校等での事故を減らすために

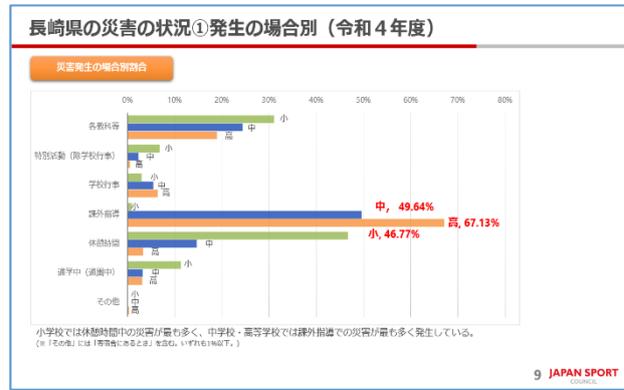
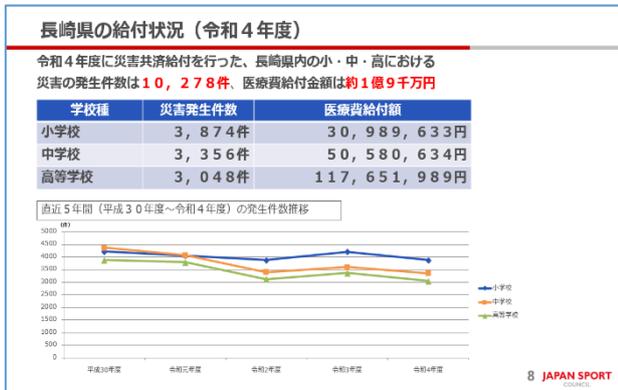
続いて、長崎県の災害の状況、熱中症の事故の傾向と予防・対策、災害共済給付Webの紹介などについて説明しました。



〔長崎県の災害の状況〕

長崎県の災害の状況については、令和4年度の長崎県内の小学校・中学校・高等学校における災害発生件数、医療費給付金額を紹介するとともに、発生の場合の傾向について説明しました。

小学校では休憩時間中の事故が多く、中学校・高等学校では、課外指導中の事故が最も多くなっています。この傾向は、毎年同じ傾向であり、全国的な傾向とも合致するため、長崎県においても注意が必要な場合となることについて、説明しています。



〔熱中症の事故の傾向と予防・対策〕

福岡支所担当地域（8県）の災害共済給付における熱中症発生件数を示し、令和4年度は、平成30年度に比べて半分以下に減っていることをお伝えしています。

また、災害共済給付における熱中症の事例を学校種ごとに紹介しています。

事例① 小学校

小学校3年・女子	体育 (運動会練習)	発生時期：6月 発生時間：11時30分 気温：28度	場所：運動場
発生状況： 運動会の全体練習で、立ちっぴり座ったりの動きや移動の練習をしており、1時間近く太陽の日差しを浴びていたこともあり、立っている状態から膝を着き後方に倒れた。手足のけいれんが数秒起こり、大量の汗をかいていた。			
学校がとった措置状況	すぐに日陰へ運び、冷却、水分補給を行ったが、呼吸が荒く顔面蒼白であったため、救急車を要請し、保護者へ連絡をした。		
その後の経過	病院にて処置後、無事回復し、入院することなく帰宅した。予後もよく、その後の継続治療なし。		

事例① 高校

高校1年・男子	体育的部活動 (野球)	発生時期：6月 発生時間：19時30分 気温：22度	場所：運動場
発生状況： 午前・午後と3校で交代して野球の練習試合を行っていた。本生徒はキャッチャーで防具をつけており、一人汗をかいていた。（適宜、水分を補給していた。） 練習試合を終えて帰るバスの中で、喉が潤いてたが、疲れきって寝てしまい、水分補給しなかった。本校に戻り、バスを降りてすぐにグラウンドに集合しミーティングを行った際、立って話を聞いているうちに、意識がもうろうとし、倒れた。			
学校がとった措置状況	意識がはっきりしないため、すぐに救急車で病院に搬送した。		
その後の経過	病院にて処置後、無事回復し、入院することなく帰宅した。予後もよく、その後の継続治療なし。		

また、JSCで作成したパンフレット「熱中症を予防しよう—知って防ごう熱中症—」※2から、熱中症の予防と原則を紹介し、熱中症予防にあたっては、徐々に暑さに慣らしていくことや個人の条件を考慮することなどについて説明しています。

予防と対策① ～熱中症の予防と原則～

- 1 環境条件を把握し、それに沿った運動、水分補給を行うこと**
 - 直射日光の下で、長時間にわたる運動やスポーツ、作業をさせることは避ける。
 - ランニングやガッツウの繰り返しによって多く発生している。
 - 屋内外にかかわらず、長時間の練習や作業は、こまめに水分（0.1～0.2%食塩水あるいはスポーツドリンク等）を補給し疲労状態を入れる。また、終了後の水分補給も忘れぬようにする。
- 2 暑さに徐々に慣らしていくこと**
 - 極暑明けなど急に暑くなった時に多く発生する傾向がある。夏以外でも急に暑くなると熱中症が発生する。
 - 急に暑くなった時は運動を軽くして、1週間程度で徐々に慣らしていく必要がある。
- 3 個人の条件を考慮すること**
 - 暑さの耐久性は個人差が大きく影響する。
 - 肥満傾向の者、体力の低い者、暑さに慣れていない者は運動を軽減する。
 - 特に肥満傾向の者は熱中症事故の7割以上を占めており注意が必要とする。
- 4 服装に気をつけること**
 - 服装は軽装とし、吸湿性や透気性のよい素材にする。
 - 屋外で運動やスポーツ、作業を行うときは、帽子をかぶらせ、できるだけ陰をさせる。
- 5 具合が悪くなった場合には早めに運動を中止し、必要な処置をすること**
 - 常に健康観察を行い、児童生徒等の健康管理に注意する。
 - 運動技能や体力の喪失、疲労の状態等を把握するように努める。
 - 心身に不調を感じたら申し出て休むよう指導は、無理させないようにする。

22 JAPAN SPORT

【災害共済給付Webの紹介】

JSCのウェブサイト「災害共済給付Web」では、給付金の請求様式のダウンロードに加えて、各種の事故防止対策に資する資料を提供しています。

その災害共済給付Webについて、どのような資料が掲載されているか、その資料の活用方法などについて、説明しています。

学校等事故事例検索データベース※3では、災害共済給付において平成17年度～令和4年度に給付した、総数9,160件の死亡・障害事例が閲覧できます。

エクセル形式でダウンロード出来ますので、学校等で行う研修等でご活用いただくことが出来ることを紹介しています。

学校等事故事例検索データベース

■できること
災害共済給付で死亡見舞金・障害見舞金・供花料が支払われた事故事例が閲覧できます。

■活用場面
研修等の資料作成

| 年度 | 種別 | 性別 | 死亡・障害 |
|------|----|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 17年度 | 死亡 | 男 | 死亡 |
| 18年度 | 死亡 | 男 | 死亡 |
| 19年度 | 死亡 | 男 | 死亡 |
| 20年度 | 死亡 | 男 | 死亡 |
| 21年度 | 死亡 | 男 | 死亡 |
| 22年度 | 死亡 | 男 | 死亡 |
| 23年度 | 死亡 | 男 | 死亡 |
| 24年度 | 死亡 | 男 | 死亡 |
| 25年度 | 死亡 | 男 | 死亡 |

ホーム > 事故防止 > 学校等での事故防止対策集(調査研究)

41 JAPAN SPORT

【研修を終えて】

あいにくの雨の中での開催となりましたが、参加者からは、「高額医療の件など、認識と違う部分もあったかと思うので、話が聞けて良かった。」「今後の請求手続きにも役に立てたい。」「全員の先生方が、今回お話を聞けてよかった。定期的にこのような会を開いてほしい。」など前向きなご意見をいただいています。

また、「今回JSCの方に実際お会いでき、お顔を知ることができたので、問い合わせの電話をかけやすくなりました。これから安心です。」という意見もいただいています。

【最後に】

今回このような機会をいただき、JSCとしても良い気づきの機会となりました。

また、普段、不安に感じられている請求事務について、直接の説明機会を持つことで、問い合わせしやすくなるというお声をいただくなど、今回の分科会後の対応にも良い影響があればと感じたところです。

また、JSCが作成する事故防止資料の周知・活用方法の例示等による活用促進についても、「資料の活用について、どのように活用すればよいか分からない。」という感想をいただきましたので、今回のような機会を活用して、資料の活用方法についても積極的に周知し、学校等における事故防止の取組を支援していきたいと考えております。

今回のように養護教諭の方々が集まる研修会、教育委員会が主催される研修会等で、「JSC職員から学校事故防止に関する話をしてもらいたい」等の御要望がございましたら、福岡支所までお問い合わせください。

なお、講師派遣にあたっての旅費・謝金等は不要です。

リモート研修も対応可能ですので、是非御検討よろしく申し上げます。

<参考資料>

- ※1 [災害共済給付Web](#)
- ※2 [「熱中症を予防しよう—知って防ごう熱中症—」](#)
- ※3 [学校等事故事例検索データベース](#)